

復興応援団だより

2015. 7/N038
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

花王スタディツアー

5月23日、24日に、花王株式会社社員の有志の方を対象としたスタディツアーを開催しました。このプロジェクトは、花王の社員向けのスタディツアーです。今回は、首都圏のみならず、栃木県から愛知県まで様々な事業所から26名の方々にご参加頂き、現地見学を皮切りに、株式会社小野花匠園で農作業のお手伝いを行いました。

1日目は、菊のビニールハウス内の草抜き、2日目は、小野花匠園で栽培している『はるちゃんトマト』の収穫とハクビシン対策の柵作りをしました。実際にはるちゃん



トマトを食べた参加者の方は、甘さが特徴のトマトの美味しさに感動していました。2日間ともに真夏のような暑さでしたが、参加者の方は楽しんで作業を行い、達成感の笑顔で満ち溢れていました。

2日目の昼食には南三陸のA級グルメ『キラキラ丼』を頂きました。夏のキラキラ丼はウニ丼で、参加者の方にとって忘れられないグルメの1つになったようです。今回のプロジェクトを通して、参加者の方々から自分にも何かできることがあるとわかった、南三陸のファンになったという声を聞くことができました。これからもそのような声を聞くことができ、今後にも復興応援団はプロジェクトを実施していきます。



(宮城学院女子大・岩淵)

豊オプンアカデミー

5月29日～31日に「東北オープンアカデミー」の一貫として、復興応援団代表の佐野が講師を担当する、南三陸町でのフィールドワークを開催しました。

南三陸町で地域おこしの担い手の方々に直接お話を伺うことで、地域おこしのヒントや担い手の生き様を学ぶでもらうことを目的としています。



今回は4人の方が参加しました。今回伺ったのは、「たみこの海パックス」の阿部民子さん、「Yes工房」

の阿部忠義さん、「マルアラ」の及川吉則さんの3人です。それぞれそれまでの経緯や境遇は違いますが、どの方も強い思いを持って事業を行い、雇用を生み出し、人を活気づけていました。



↑「マルアラ」の及川さんとの記念撮影

う生かせるかを熟考されていきました。質問や意見も熱心に出されていて、充実した時間となりました。

(東北大・木田)

復興応援団とは

私たち「復興応援団」は「地元の方が主役の復興」を目指して、①地元のファンを増やし、②地元の人とファンが一緒に復興とまちづくりに取り組みしくみをつくり、③特に地元の若い世代による復興とまちづくりの大きな役割を担うことを目標としています。

南三陸町では、地元の復興の担い手の元に全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。

多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみなさんが中心となったコミュニティづくりを応援しています。

↓仮設住宅への復興応援団だより配布



↑被災当時の状況を学ぶボランティア参加の方々